

人を育て品質確保を

ダク異形管工業会総会

日本ダクタイトル異形管工業会は12日、都内で第59回定時総会を開催し、昨年度の決算・事業報告、今年度の予算・事業計画案など5題を審議、了承した。

冒頭あいさつで平成年代を振り返った村瀬充会長(村瀬鉄工所社長)は、異形管の出荷実績のピークは1998年頃で、以後は事業環境が厳しさを増していることを説明。一方で昨年末の改正水道法の成立、今年度の改元と



村瀬会長

いう節目に当たり「これを契機に需要増を期待するとともに、官と民で力を合わせて新時代に対応していきたい」などと決意を述べた。事業報告・事業計画については、技術委員会と広報委員会からそれぞれ説明があった。

技術委は、会員会社における品質管理活動の充実、規格の制定・改正への対応、関連団体の課題への対応の三つを活動の柱としている。中でも品質管理に関しては、工業会としての標準(JDFQ)を制定し、必要に応じた社内標準への適用を各社に呼びかけることで業界全体の質の向上に取り組む。昨年度もJDFQの一部を改正し、各社に周知した。また昨年4月には、委

員が2年間にわたり編集作業を進めてきた「異形管テキスト」が完成した。異形管の役割や歴史、技術などを基礎からまとめられたもので、業界内で知識が継承され「誇りと愛着を持って仕事に臨めるよう」にとの希望が込められている。完成後も適宜改訂することとし、昨年度のうちに内容を拡充。今年度も新章や用語を追加しつつ研修会などで活用していく。

一方の広報委は人材育成を取組みの中心とし、下水道に関する知識を深める研修会を東京都下水道局の下水道技術実習センターで開催した。また、HPの会員専用サイトの充実と更新頻度の増加を図り、アクセス増につなげた。

なお、今年度の研修会は7月18日にトヨタ産業技術記念館で開催する予定であるとし、会員各社に参加を呼びかけた。終了後の講演会では、日本水道工業団体連合会

の宮崎正信専務理事が改正水道法について熱こもった講演を展開した。法改正の意義をはじめ、事業者間の連携・協力、アセットマネジメントに基づく計画的な更新の重要性、IoTの活用促進などの課題解決策を詳細に解説。「増額された(政府)予算をしつかりとした更新計画のもとで消化してほしい。将来に禍根を残さないため、また市民の安心を守る水道事業の持続のため、水道界一丸となって『今』を頑張っていきたい」などと聴衆を鼓舞した。